



通算2オーバー、146

55 歳の井上勤昭 (西戸崎シーサイド) が初優勝



念願のカップを手に
喜びの井上勤昭

前年優勝の坂本一馬 (別府、57 歳) はこの日、85 と崩れ、新穂芳昌 (福岡サンレイク) らとともに 46 位タイに終わった。

この日のコンディションは晴れ、気温 27.9 度、東北東の風 2 m (正午現在)

22 人が日本シニアに挑戦権

この試合の結果、11 オーバー、155 の 12 位タイまでの 17 人と、12 オーバー、18 位タイ 6 人のうち、マッチングスコアカード方式で選ばれた 5 人の計 22 人が第 34 回日本シニアゴルフ選手権 (11 月 7 ~ 9 日、徳島県・Jクラシック GC) への出場権を得た。

大会最終日は 27 日、81 人による決勝ラウンドが行われ、この日 3 バーディー、4 ボギーと、ベストスコア 73 で回った 55 歳の井上勤昭 (西戸崎シーサイド) が逆転して、通算 2 オーバー、146 で初優勝した。

井上、3 打差を逆転

首位の楠元利夫 (都城母智丘、63 歳) に 3 打差の 73、2 位タイでスタートの井上。速さを増したグリーン、特有の難しいピンの位置にスコアメイクに苦戦する選手が続出するなか、前半、1 バーディー、1 ボギーで回り楠元を射程にとらえると、後半も 2 バーディー、3 ボギーと安定したゴルフを見せ、後半 43 をたたいた楠元を抜き去った。

4 打差の 2 位には 2 バーディー、4 ボギーの 74 と手堅くまとめた 56 歳の鶴木伸久 (ブリヂストン) が通算 6 オーバー、150 で、さらに 1 打差、7 オーバーの 3 位タイにはこの日 77 の守田和義 (佐世保、59 歳) と、初日首位の楠元が入った。

昨年の日本ミッドシニア優勝の大川重信 (小郡、67 歳) は初日、首位に 5 打差とやや出遅れていたが、最終日は

77 で回り、比嘉猛 (ベルビーチ、63 歳)、松本芳宜 (長崎、54 歳) とともに 8 オーバー、5 位タイに食い込んだ。



2 位に食い込んだ鶴木伸久

(C)GUK



シニアのルーキー 井上勸昭 "若さ、でつかんだ栄冠"

参加資格は今年12月末現在で55歳以上で、JGAハンディキャップ17.4までの選手。各県地区予選を経て本戦に出場し、81人（うち棄権1人）が今日の最終日を戦った。54歳から69歳まで、かつての日本シニアオープンのローアマがいれば、日本シニア、日本ミッドシニア選手権の優勝者もいる。

九州のシニアは強い。そんな評価がある中だったが、「初めての挑戦だし、若い方が（年配者より）チャンスがあるだろうと思って臨んだ」という。

ティーショットする井上勸昭



「チャンスがあるだろう」は試合前。目標は上位での日本シニアへの出場権獲得だった。だが、いざ試合に入ると、2位タイ発進。「チャンスはそうはないだろう」と目標を切り替えた。

最終組で相手を見ながらのゴルフ。前半に1打差に迫り、後半は楠元の自滅にも助けられ、逆転。さすがに、リードしたあとの後半の終盤は優勝を意識したか、「体が動かなかった」と苦笑する。

コースから自宅まで5分程度。ゴルフレンジ、フットサル場を経営する。和臼はよくラウンドするコースで、「このグリーンは速いことは分かっていた」。知っているだけに、難しさだけを意識しないように、練習ラウンドをしなかった。「とにかく、グリーン（パッティング）に集中して、集中して…。それが結果的によかった。いい緊張感で回れた」と振り返る。

福大大濠高出身。若いころは「草野球」だったが、20年ぐらい前からゴルフ競技に出るようになった。が、これまで、タイトルとは無縁。それが、シニア入りした今年、総理大臣杯社会人選手権九州大会で優勝、都道府県対抗の県選考会で1位タイと好調。

都道府県対抗の県選考会で1位タイと好調。

日本シニア選手権に九州の優勝者として出場する。初出場のプレッシャーはあるだろうが、「今日みたいなゴルフができれば」と、すっかり自信もついた井上だった。（Kiku）



46位タイに終わった坂本一馬

○…3パットを2回してもしぶとく77で回り5位タイの大川重信 9番でバンカーに入れてトリプルをたたき、気が抜けてしまった。難しいのは分かっているのに、体に対応できていなかった。下半身を強化し、体を作りなおしてまた挑戦したい。

○…46位タイに沈んだ前年チャンピオンの坂本一馬 勝負をかけてガンガン行くつもりだったけど空回りした感じ。9番で4パットして8をたたき、終わった。（85のスコアは）いつ以来か？ 記憶にないですね。



5位タイの大川重信

ただ1人のアンダーパー、70をマーク

楠元利夫（都城母智丘）が単独トップ

前年覇者、坂本一馬（別府）は6打差の11位タイとやや出遅れ

第1ラウンドが26日、福岡市東区上和白の福岡カンツリー倶楽部和白コース（6594ヤード、パー72）で150人（棄権1人）が参加して開かれ、63歳の楠元利夫（都城母智丘）が5バーディー、3ボギーとただ一人のアンダーパーの70をマークし、単独首位に立った。



ただ独りアンダーの70をマークし首位に立った楠元利夫

楠元はアウトで1バーディー、2ボギーの37とした後の後半、10番から3ホール連続でバーディーを奪うなど33で回り、ホールアウトした。

3打差の73、2位タイには三原由紀夫（佐賀、61歳）、井上勤昭（西戸崎シーサイド、55歳）、山口龍良（佐世保、60歳）の3人。さらに1打差の5位タイに守田和義（佐世保、59歳）、比嘉猛（ベルビーチ、63歳）の2人がつけた。

前年優勝の坂本一馬（別府、57歳）は出だしのOB2連発などで76をたたき、11位タイと出遅れた。昨年の日本ミッドシニアチャンピオンの大川重信（小郡、67歳）は3オーバー、75の7位タイ発進。

距離はそうはないものの、高低差のあるコースと速いグリーン。博多湾からの風も微妙に選手のショットを狂わせ、スコアは伸びなかった。（晴れ、気温26.5度、北北東の風4＝正午現在）

エースを達成し、5位タイと好位置の比嘉猛



エースを達成し、5位タイと好位置の比嘉猛

81人が最終日の決勝ラウンドへ進出

この日の結果、10オーバー82の72位タイまでの81人が最終日の決勝ラウンドに進出した。

また、この日の試合で比嘉猛（ベルビーチ）が2番（173ヤード、パー3）でホールインワンを達成した。



“マイペースで”

初のビッグタイトルを狙う楠元利夫

「ショット、パットともにこれ以上ないくらいにかみ合った。上出来でした」と満面に笑みの楠元利夫だった。しかも、「このほかにも、カップにけられたりして、あと3〜4個はチャンスがあった」そうだ。

シニアの層が厚く、“戦国”と評される九州シニア界。会場の福岡CC（和臼）は距離はないものの、フェアウエーの起伏やグリーンの速さに定評があり、歴戦のシニアたちが苦戦していた。

そんな中で、2アンダーをマークした楠元はもちろん、満足のラウンドだったろう。

実は、この試合前までは「ドライバーはまっすぐ飛ばず、ショットが悪かったんです…」という。窮余の一策で、以前使っていたドライバーを引っ張り出して使ったところ、「当たりました」という。183センチの長身からのドライバーは260ヤードの飛距離だが、これが大きな武器になったという。

ゴルフは友人の誘いで38歳から始めたというから、奥手ではある。が、「結構、凝り性だもんで…」とのめり込み、3年でクラブチャンピオンに。

まだ、アマチュア選手権、シニアと九州選手権での優勝歴はない。九州シニアは10位タイ（2006年）が最高。しかし、日本シニアは過去、敗れはしたもののプレーオフを争ったこともある（2005年）。

最終日に向けた抱負について再び、「九州はシニアが強いですよ」と水を向けると、「要は自分のゴルフができれば、自分のペースでいければチャンスだと思っています」と。そのカギを握るのは、「ここはグリーンが速い。最終的にはパット勝負になると思います」とちょっと表情を厳しくした。 (Kiku)



○…公式競技で初めてのホールインワンを達成し、5位タイの比嘉猛 打ち上げのホールでピンの根元は見えなかった。4番アイアンのショットは感触が良かった。パターを持ってグリーンに行ったけど、入っていたとは…。明日も自分のゴルフをしたい。

○…3オーバー、75の7位タイ発進の大川重信 今日パターが入らなかった。ティーショット、アイアンは先週（九州ミッドシニア選手権）よりましになった。（試合続き？）うん、整体というよりも、手入れして鍛えないといけない。

○…首位に6打差の11位タイ発進の前年覇者、坂本一馬 1番でいきなりのOB2連発の9はショックだった。最近、仕事が忙しかったのもあり、あまり試合も出ていなかった。ラウンド終盤にはショット的にもだいぶ戻ったし、最終日はガンガン行きますよ。

打球の行方を心配そうに見つめる坂本一馬（1番ホール）

○…一昨年の優勝者、新穂芳昌（福岡サンレイク）は5オーバーで19位タイ ドライバーはいいんだけど、風が読めなかったし、グリーンが難しかった。コースに負けたという感じ。明日は、パープレーを目指して…。



7位タイとまずまずの出足の
大川重信

150 選手が参戦

福岡CC（和白）で明日26日、開幕

55歳以上のシニア世代の九州チャンピオンを決める大会。

出場するのは11県地区での予選通過者や前回大会の上位者、各県地区研修会シニア部門ランク1位者ら計154選手(エントリー)。ディフェンディングチャンピオンの坂本一馬(別府)を始め、新穂芳昌(福岡サンレイク)、武田幸一(麻生飯塚)、山浦正継(志摩シーサイド)といった歴代優勝者や昨年の日本ミッドシニア選手権優勝の大川重信(小郡)や田中清文(祁答院)ら実力者が出場予定だ。

選手権は2日間で、26日は予選、上位80位タイまでの選手によって27日の最終日の決勝ラウンドが争われる。

会場の福岡カンツリー倶楽部和白コース(6594ヤード、パー72)は福岡市東区上和白の住宅に囲まれた地にある。戦後の昭和27年に開場した60年の歴史があるゴルフ場で、「和白ゴルフ場」として親しまれてきた。

立花山のふもとに広がるアウトコース、博多湾を望むインコース。アップダウンがあり、池やバンカーが戦略性を高めている。季節的には、博多湾からの風も大きなハザードになる。

男子プロトーナメントのKBCオーガスタの発祥の地。今年は女子プロツアーのフンドーキンレディース(5月)の会場になった。連盟主催競技は2度の九州オープン選手権のほか九州アマチュア選手権、九州女子選手権、九州ジュニア選手権など数多くの大会が開催されているが、九州シニア選手権は初めての開催になる。

初日26日の予選ラウンドはアウト、イン午前7時30分、同時にティーオフ予定。

